

中国内陸地域および都市郊外・農村部における廃車解体処理

平岩幸弘

本報告では、中国の自動車静脈経済における中古車や廃車等の空間移動について論じた上で、その結果生じうる中国内陸地域や都市郊外・農村部における廃車解体処理の問題について検討する。

(1) 自動車静脈経済における取引

一般的に、リユースやリサイクル、解体処理、廃棄処分などの“静脈経済”には、フォーマル経済とインフォーマル経済が存在し、自動車静脈経済では中古車や廃車、各種中古部品、廃鋼鉄などの財が取引されている。フォーマル経済は『二手车流通管理方法』や『報廢汽車回收管理方法』などの法制度によって規定される。2005年の公式統計によると、中国全体の中古車取引台数は145万台、政府認証の廃車解体企業は400社、廃車台数は56万台である。他方、インフォーマル経済とは、それらの法制度が遵守されていない経済である。例えば、違法廃車回収企業は、廃車から取り外した5大品目や違法改造中古車などを取引して、莫大な不正収益を得ている。ただし、インフォーマル経済は統計がないため、実態を把握することは困難である。

(2) 自動車静脈経済における財の空間移動

自動車静脈経済における財の空間移動は、国家間・地域間・地域内において、フォーマル・インフォーマルの両経済で生じる。その主な要因として次の2つがある。経済格差：経済先進国・地域では新車が大量に需要され、大量の中古車や廃車、中古部品が発生する。使用年限間近の低年式車や違法5大部品の一部は、所得水準の低い経済発展地域へと流出する傾向にある。管理・規制格差：特にインフォーマル経済では、車両管理や違法企業取締りが厳しい地域から緩い地域へと、中古車や廃車、中古部品が流出する傾向にある。

以上のことから、仮説として、自動車静脈経済における財の空間移動は図のようになると考えられる。中国の場合、東部臨海地域から近隣および中西部内陸地域へ、あるいは、大都市部から郊外・農村部へと中古車や廃車、中古部品が移動する可能性がある。

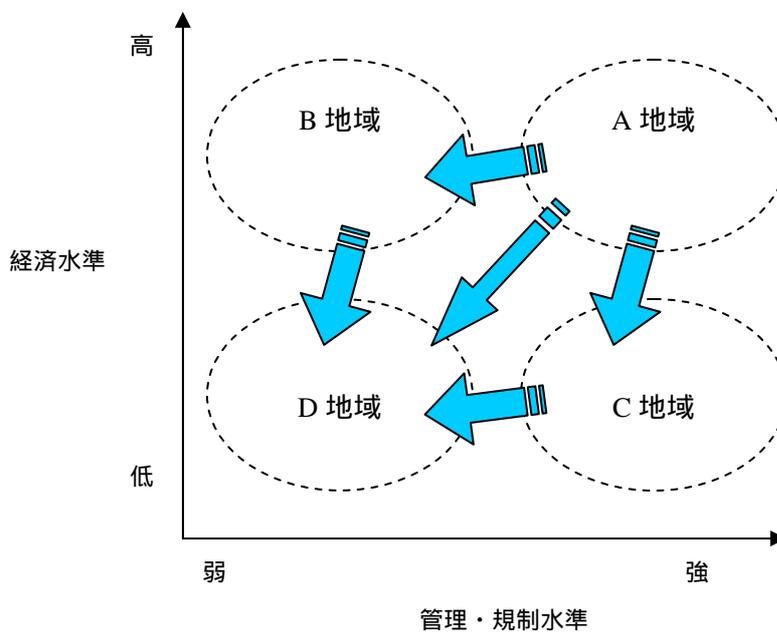
(3) 内陸地域および都市郊外・農村部における問題

中古車や中古部品がリユースされること自体は、資源節約および経済厚生の面で有益である。しかし、廃車にはフロンガスや廃油廃液、鉛・水銀などの重金属が含まれているため、適正な解体処理をしなければ大気汚染や土壌汚染などの環境問題の原因となる。東部臨海地域の大都市では廃車解体工場の大規模化、先進化が進められ、適正処理が進みつつある。しかし、内陸地域や都市郊外・農村部では、未熟な粗放的な解体処理が行われているようである。つまり、自動車静脈経済では、大都市部よりも郊外・農村部において相対的に環境汚染が進行する可能性がある。

(4) 今後の課題

まずは、内陸地域および都市郊外・農村部の廃車解体処理の現状、および他地域からの車両の移転量を正確に把握する必要がある。その上で、各地域の認証廃車解体企業は、解体処理規模に応じた技術導入と適正処理の徹底を進める必要がある。地方政府や公安局では、車両管理や違法企業取締りの徹底、さらにはインフォーマル経済からの違法な中古車・廃車の回収および受け入れなどの対策が必要である。それらの財源として、他地域から移転してくる車両に対する課税などが考えられる。また、廃車リサイクル先進国である日本からの技術指導やノウハウ移転などの協力は非常に有益だろう。

図 自動車静脈経済における財の空間移動



平岩 幸弘 HIRAIWA, Yukihiro 修士(経済学)

一橋大学大学院経済学研究科博士課程 単位取得

桜美林大学経済学部 非常勤講師

専門：環境経済学，産業組織論

研究テーマ：日本および中国の自動車リサイクル政策分析，廃車解体処理業の産業分析

主要業績(日本語)：

- ・ 『自動車リサイクル 静脈産業の現状と未来』(共著), 東洋経済新報社, 2004年3月.
- ・ 「中国における自動車リサイクルの現状」, 『環境と公害』36(4), 2007年4月,

E-mail: EZH03343@nifty.com